

《公開用感染制御相談事例集(Q&A)》

相談事例No. 29

区分 医療関連感染症別の対策（尿道留置カテーテル関連尿路感染症）

【質問】

- 1．尿道留置カテーテルを挿入するとき、陰部を消毒する必要があるのか、または洗浄のみでいいか教えてください。
- 2．尿を廃棄した後、バッグの排尿口をアルコール綿で拭く必要はあるのでしょうか？
- 3．尿道留置カテーテルを腹部や大腿部に固定していますが、尿道損傷の原因となるのでやめたほうがいいのでしょうか？

【回答】

- 1．CDCのガイドラインでは、尿道留置カテーテルは無菌的に挿入し、閉鎖式導尿システムを維持することを推奨しています。国公立大学附属病院のガイドラインも、尿道留置カテーテルの挿入は無菌操作と滅菌器具を用いて行うこととしています。これらのことから、挿入時は尿道口の消毒を行うようにします。また、陰部が汚染されている場合には、消毒効果を上げるために、消毒前に陰部洗浄を行うようにします。
- 2．尿溜まりがあることや、排尿口の外側に尿が付着していることから、それらをアルコール綿で拭いて除去している施設や、アルコール綿ではなくティッシュなどを使用している施設もあります。排尿口をアルコール綿などで拭きとってから収納することで、尿による汚染や臭いへの対策にもなります。

ガイドラインでは、排液バッグや排液口の管理に関して、患者ごとに清潔な集尿容器を使用し、飛沫が生じないように、また排液口が容器に触れない方法で廃棄するこ

ととしていますが、バッグの排尿口を消毒することについては記載がありません。尿バッグが廃棄時に尿溜りや尿が付着しやすい場合には、アルコール綿やティッシュなど、どれで拭き取ってもよいと考えます。

3. 尿道留置カテーテル挿入後は、移動や尿道の牽引を防ぐために適切に固定することが推奨されています。

カテーテルの固定が不十分な場合、①カテーテルが必要以上の力で牽引され、バルーンが膨らんだまま抜けてしまい尿道損傷が生じること(自然抜去や自己抜去を含む)、②採尿バッグの重みでカテーテルが尿道で前後に移動することで、摩擦が起こり粘膜を損傷させること、③カテーテルが膀胱壁に強くあたることによって粘膜組織を損傷させることなどのリスクが生じます。

損傷した組織は、微生物の侵入口となり、尿路感染症の原因となりますので、長期留置の可能性がある場合には固定することが重要となります。また、皮膚の損傷を起こしやすくなりますので、固定部位は適宜変更する必要があります。カテーテル固定中は、皮膚の状態を観察するとともに、24時間ごとに固定部位を変更します。

《参考文献等》

- 1) カテーテル関連尿路感染予防のためのCDCガイドライン，ヴァンメディカル，2009
- 2) 病院感染対策ガイドライン改定版，国公立大学附属病院感染対策協議会，2012
- 3) 感染対策ICTジャーナルvol.5，ヴァンメディカル，2010
- 4) カテーテルの固定 手技&テクニックとカテーテル固定にまつわる「なぜ？」，メディカ出版，2009